

動画配信 1

中信：
島内小学校
東信：
長小学校
南信：
阿智中学校
北信：
篠ノ井西中学校

研究委嘱 PTA 実践報告



長野県 PTA 連合会

第29次研究委嘱報告 中信地区

松本市立島内 小学校 PTA



PTAとは何か。何を目的とした集まりなのか。
— PTA活動の目指すべきところへ —

学校紹介：島内小学校は、明治19年に高松、青島、町、平瀬の4つの学校が統合して発足し、大正12年に現在地に移転、平28年に開校130周年を迎えました。松本市の西部に位置し、梓川と奈良井川が合流する湧水の地であり、何本もの堤が近隣の田畑を潤しています。松本市街地に隣接し、松本インターチェンジへのアクセスも良く、その利便性から近年大規模な宅地開発が続く人口増の地域でもあります。



研究の成果と課題

成果：

PTA活動への意識調査から、PTA会員に目的意識を十分に持ってもらい、積極的な気持ちさをさらに高めてもらうことが必要であることが分かった。そこで、「PTAとは」「PTA活動に対する目的意識」の2点を明確にし、学校の昇降口に掲示することにした。保護者の意識が変われば、教員はもとより、子どもたちの意識も変わっていくはずである。そして、今後もよりよいPTA活動を継続していくことを願っている。

課題

コロナ禍によりPTA行事がほとんど行われなかったため、実際に行事を実施してから反省し改善していくという流れがなく、また十分な引継ぎもできていないのが現状である。しかしこれを好機ととらえ、今までのやり方にとらわれず、PTA行事の行われ方を工夫し変えていくのも、ひとつの方向性であると考えている。

PTA活動の目的《可能性ある子どもたちのために》を共有し、形が変わっても、PTA活動を継続していくことを、今後のPTA会員にお願いしていきたい。

第29次研究委嘱報告 東信地区

上田市立長小 学校 PTA



「わんぱく交流会を
通してPTAと地域
ができること
～食の大切さ、命を
頂く、私たちの生き
る真田の旬をみんな
で味わおう～」

学校紹介：長小学校は明治6年に「養生学校」と名付けられ開校となりました。翌年に「水哉（すいさい）学校」と改名されました。

水哉とは、「源泉に混濁として流れ、やむことはない」という意味で、地域の方々が四阿山に源を発し、神川の清流が遠い昔から今へ、そしてこれからも未来永劫にやむことがなく流れるであろうが如く、益々充実発展する事を願う切なる思いが込められています。



研究の成果と課題

成果：

- ① わんぱく交流会を通じて自分たちの身近に素晴らしい食材があることを発見できた。また、周りの大人が協力してひとつの行事に取り組む姿は子どもたちにとっても良い影響があると感じた。
- ② 食べたいものが食べたいときに食べられる今、に食のありがたさ、食の大切さ、そしてそれは命をいただいているということ。これらを子どもたちに教えていくことは容易なことではないと感じた。

課題

- ① 今回の様な体験イベントはできても、各家庭でいつもできるとは限らないので、PTAのみならず地域の大人みんなで行き届く雰囲気を作っていくことが重要だと感じた。
- ② わんぱく交流会に限らず、現代社会の忙しさの中で、持続可能な食育体験、ふれあいの場を構築していくべきだと思う。

第29次研究委嘱報告 南信地区

阿智村立阿智 中学校 PTA



学校紹介：

県南部に位置する阿智村は「日本一の星空と花桃といで湯の郷」として知られ、阿智中学校は、村内5小学校と平谷村立平谷小学校の6校の小学校から生徒が入学する、一村一校の中学校である。村内3地区（会地・伍和・智里）にあった4中学校が統合され旧阿智中学校が誕生したのが1961年のこと。2006年には浪合村が、2009年には清内路村が合併し、新しい阿智村が誕生したことを機に、校舎立て替えが行われ、現在の小学校6校が集まる新阿智中学校が2011年（平成23年）に開校した。

「地域・保護者同士をつなぐPTA活動の取り組み」

～持続可能な取組となる仕組みを目指して～



研究の成果と課題

成果：

資源物回収は地域から求められている行事であり、行政にも期待されている活動でもあることが分かっていたが、回数の変更など考えたことで、改めて、その期待値の高さが分かった。他行政では学校が請け負わなくなったところがあると聞くが、阿智中としては、地区とつながる機会として、更にPTA活動が地区や学校を支えられる機会として、必要感を持って継続していけることを目指せるのではないかと考え合えた。

地区の具体的な意見は、未実施のアンケートを通して受け取れるように今後考えていきたい。

課題

- ・行政にはつながったが、村内全部で調整するのは難しい。地域の代表も含めた話し合いを実施する場面をどう設定するか模索していきたい。
- ・持続可能な取組となるか、方策を実行して検証し今後へ繋ぐことを引き継いでいきたい。

第29次研究委嘱報告 北信地区

長野市立 篠ノ井西中学校 PTA



コミュニティー・ス
クールの拡充と充実
～「地域とともに
ある学校」をめざし
て～

学校紹介：長野市南部の篠ノ井西地区で千曲川を挟んで千曲市に接する。果樹や田畑の多い地区や新しく造成された駅周辺の住宅地区などがある。全校生徒600名余りの規模。



研究の成果と課題

成果：

コロナ渦では、生徒、保護者、地域のコミュニティーが図れないことから、学校における新しい日常を体験しつつ、さらに対策を講じながら進めていく方向が見えた。

コロナ渦の中で感染レベルや感染予防対策をこまめに検討しながら学校から校外へ出ていく学習が限定的ではあるが、可能な場合があることも認識できた。

課題

(1) 「つばな館」では、学習だけでなく、生涯学習に関わる様々な学びの重要性を認識していることから、こうした趣味に関するものの他、事業所の専門職の皆さんによる講座など、生徒のキャリア形成に関わる講座についてもぜひ実現を目指したいと考えている。

(2) 「学びのテーマパーク篠西。」では、近年進めている「あいさつ運動」や「地域のゴミ拾い活動」、国際室に籍を置く生徒たちが国際化協会を通して企画する「地域住民の皆さんとの懇談会」などは、生徒たちの校外における活動を充実させるものであり、実際の中学生の姿を地域の皆さんに見ていただける重要な機会であると捉え、さらなる活動の充実を図っていきたい。